

第13回学生鉄鋼セミナー製鉄・製鋼コース 実施報告

学生鉄鋼セミナーWG 委員 中瀬憲治 (JFE スチール)

令和元年12月18日～20日の3日間、JFE スチール株式会社東日本製鉄所(千葉地区)において第13回学生鉄鋼セミナー製鉄・製鋼コースが開催された。製鉄、製鋼研究に携わる全国の大学の学生(製鉄コース13名、製鋼コース11名)が参加した。

初日は小林先生の開講挨拶およびオリエンテーションの後、大学委員(製鉄:京都大・柏谷先生、東工大・渡邊先生、製鋼:東工大・小林先生、東北大・植田先生)および企業委員(日本製鉄:片山様、正木様、神戸製鋼所:中須賀様、豊田様、JFE:市川、中瀬)の紹介が行われた。引き続き、各社の会社紹介が行われ、各社の特色をアピールしたプレゼンテーションに対し、学生から積極的な質問を頂き、鉄鋼会社に対する関心の高さが伺えた。その後、夕食会が開かれ、渡邊先生の乾杯のご挨拶の後、学生および委員の間で活発な会話がなされた。会話の内容は真面目な物から砕けた物まで多岐に渡り、初日から十分なコミュニケーションを取れたと感じた。

二日目は柏谷先生から「製鉄プロセス概論」、小林先生から「製鋼プロセス概論」の講義が行われ、その後、各コースに分かれて受講生の研究紹介およびディスカッションが行われた。受講生による研究紹介は資料準備および発表練習を十分に行った様子が伺われ、本セミナーに真剣に取り組んで頂いたことが良く伝わってきた。受講生に企業側への質問の事前提出をお願いしたが、いずれの質問も「自分の研究を如何に良くするか」「企業で適用できるか」という視点であり、研究者としての頼もしさを感じた。アンケートでも、他の研究内容に触れられたこと、普段と異なる視点での質問を受けたこと、事前質問への企業側からのコメントが有益であった旨の回答を複数頂き、受講者にとって貴重な場となったようである。夕刻からは企業の研究開発事例紹介(製鉄:神戸製鋼所、製鋼:日本製鉄)が行われ、企業における研究開発の目的、スケールアップに至るステップ、実機プロセスへの適用事例等が紹介された。その後の懇親会では、日本鉄鋼協会の戸澤事務局長による乾杯のご挨拶の後に、開催地より参加した千葉製鉄部、製鋼部のエンジニアの自己紹介を頂いた。その後、受講者の自己紹介をして頂いたが、本セミナーに対する感想や鉄鋼業界への思いを聞くことができ、以後の懇親の場において受講生同士および先生方、各社社員との会話が大いに盛り上がった。最後に植田先生にご挨拶および大学側から見た鉄鋼業と大学の関係について一言頂いた。

三日目は東日本製鉄所(千葉地区)の焼結工場、高炉、転炉、連続鋳造の見学を実施した。受講生には真剣に見学頂き、迫力があつた、現場の空気感を味わえたなど、総じて高評価を頂いた。一方で、自身の研究に係わるプロセスの見学を望む意見も頂いた。20名を超える見学者に対してきめ細やかな対応を取れなかったことをご容赦頂けると幸甚である。

セミナー終了後に提出頂いたアンケートを集約したところ、鉄鋼業界志望が約60%であった。また、セミナー前と比べ、ほぼ全ての方に鉄鋼業界に良い印象を持って頂いたとのことである。本セミナーが鉄鋼業界の魅力アップおよび受講者の皆様の今後の進路に貢献できたのであれば、この上ない喜びである。

最後に、開催地担当として至らぬ点が多々あつたかと思いますが、先生方と各社委員の皆様、日本鉄鋼協会の皆様、そして受講者の皆様のご協力のおかげで無事セミナーを終えることができました。重ねて感謝申し上げます。

